

## 令和4年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	NPO法人田万川地域サポート21	代表者	齋藤 博英	法人・事業所の 特徴	『ぬくもり』では理念をもとに、地域に密着した介護サービスを提供できるよう日々努めています。多様なニーズに対応できる『小規模多機能ホーム』では、利用者様だけでなく地域や家族を支援する福祉活動を続けています。
事業所名	小規模多機能ホームぬくもり	管理者	津守 美江子		

出席者	市町村職員	知見者	地域住民/団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	1人	2人	2人	人	2人	3人	1人	12人

項目	4年度の改善計画	4年度の改善計画に対する取組み・結果	意見	令和5年度改善計画（確定）
A. 事業所自己評価の確認	事業所自己評価項目を意識し、チームとして統一した介護サービスを提供できるよう心がける。	運営推進会議（第5回）にてご報告します 勤続年数の長い職員による勤務体制が構築できており、普段の利用者の介護情報共有の仕方、緊急時の対応の仕方、家族や医療機関との連携など、長年の経験を踏まえ効果的に動いていると事業所としては評価している。引き続き、OJTやOFF-JTにより介護力向上に努めたい。	特になし	管理者・主任/ケアマネ・職員の普段からの声掛けや電子媒体やノートの連絡、会議を通じた情報共有を徹底し、引き続きチームとして統一した介護サービスを提供できるよう努力する。
B. 事業所のしつらえ・環境	室内の季節感のある飾りつけやテラスの植込みなどに自然な配慮をし、ご利用者に生活上で豊かで穏やかな気持ちで過ごしてもらうよう工夫する。コロナ感染対策として玄関入口のビニール製暖簾の1日2回の消毒をする。	例年のように、開放感を維持することに配慮し、環境面の整備を行えた。また、臭い対策も行った。	特になし	引き続き室内の季節感ある飾りつけ、衛生面管理（定期の掃除と消毒）を実施する。
C. 事業所と地域のかかわり	普段からの情報収集や地域関係の各種会議への参加や、コロナ感染対策を講じながらたまらぼを含めた事業を通じて地域ニーズを積極的に汲み上げる。	地域の方の連絡を普段からもらえる関係作りを行えた（利用者さんの自宅での行動など）。	特になし	普段から訪問時、買物等に出向いた際に、地域の方との関係づくりを意識する。
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み	関係者と直接の対面や実施ができない場合は、その他の手段（オンライン、電話、メールなど）を有効活用し、地域の情報を細かにフォローし、関係づくりに努める。	出来る限り会議への参加が出来た。イベントはコロナ感染拡大が収束しなかったことから、やはり出向くことができなかった。	特になし	地域関係者の会議への参加や、たまらぼ等による地域の情報収集に取り組み、要介護度が重度化する前のアプローチを積極的に行う。
E. 運営推進会議を活かした取組み	小規模多機能ホームの利用の現状と当サービスの強みや課題を委員の皆様にも知ってもらい、意見を聴取することで、サービスの質の向上に繋げる。	毎年の事業所評価作業が過大であるとのことで、委員さんより負担軽減をしてほしい、日頃の活動について自由に紹介してもらえる方が委員としては事業所が何をしているかが分かり易いとの声が例年入る。現制度上必要であることをお伝えし、ご協力を求めると同時に、事務局では委員さんの負担軽減に向けて、回答しやすいよう作	特になし	引き続き、小規模多機能ホームの現状を運営推進会議の場でできるだけ多く紹介できるよう工夫し、サービスに対する意見を頂き、一層のサービス向上に繋げる。
F. 事業所の防災・災害対策	令和4年度も協力体制整備への協力も含め、前年計画を引き続き継続して行う。BCP策定を進める。	例年通り、決められた計画に基づき、実施することができた。	特になし	防災への対応は福祉関係サービス分野では特に重要であることから、令和5年度も協力体制整備への協力を含め、前年計画を引き続き継続して行う。